

廈門大學圖書館珍藏
主編：季嘯風、沈友益

中華民國史史料外編

——前日本末次研究所情報資料

日文史料
第二冊

廣西師範大學出版社

副議長候補

衆議院議長は大多數を以て王揖唐氏當選參議院は梁士詒氏たるべきは預料の中にあつて而して衆議院副議長は本日選挙の期日なるも大勢劉恩格氏に決定の如きが參議院副議長は未だ各派の交渉纏らず争鬪戦の最中にあつて候補として目せらるゝ人物を擧ぐれば下の如し

▲田○璽○ 前科甲出身政事々章極めて根底あり參議院議員に歴任國會の情形に尤も熟達且其人となり撲直剛正尤も識聞を具膽す

▲朱○啓○ 前内務部總長にして其歴史は人の熟知する所前に副議長推薦の聲あるや談泊明志と表示する爲め西山に避け各方面の注意を免れ居れり

▲段○建○雲 湖北巡按使卸職以來彭城に隱居世事を聞かざりしが遼回

參議院議員となる

▲李○盛○ 前清二甲科出身にして盛名あり今回の當選も李氏は未だ郷に回らざるに他人代つて奔走せしと以て郷里の人望を推すに足る適宜副議長候補の呼聲あるや天津に赴きて之を避けつゝあり

▲張○元○ 其資格殷春雲氏と略ぼ同じく交遊又厚し

▲任○有○ 前國務參議官編輯輯辦護士而して今又參議院議員となり副議長候補の一に算へらる

▲鄧○鎔 舊議員にして辦護士を兼ね副議長選挙に就ては殷書雲と共同運動を試みつゝあり

▲秦○觀○ 舊國會議員にして副議長候補者として熱心物々たりし

陸氏の意見

陸榮廷氏が最近梁氏其他に宛て南
北妥協の意見を発表せりと傳へら
るるを報ぜん

朱啓鈴周自齊梁士詒閣下林紹奎
關鈞二君大教を奉じて来り余に
隨るに時局解決の方法を以てす
率誦の餘り欽佩殊に深し中間列
する所の八條は(一)廣東現有の
軍隊を配置する法(二)龍濟光を
追ふこと(三)莫榮新を他の職に
任ずること(四)兩廣巡閱の事
(五)廣東督軍の任命は榮廷の同
意を得ること(六)廣東政府の支
出に係る軍費若干は中央より負
擔すること(七)廣西督軍は榮廷
より推薦すること(八)雲南貴州
方面の解決及び國會の召集法等
なものが如し爰に謹んで各項に對
し卑見を述べんに榮廷義勇の身
なれば兩廣巡閱使の職を全うす
ること能はざるを信ず廣東督軍
の職も亦同意すること能はず龍
濟光は必ず去らしめざる可から
ず廣西督軍に當て譚延闓を任
ずべし莫榮新のことは竹伯恒君
が京に返る時廷の意見を述べて

其同意を得再び決定せり然れど
も斷じて廣東に駐留せず四川雲
南のことは敢て與り聞かず湖南
の護法軍隊は省長譚延闓より改
編じて同省の國軍となす廣東に
駐在せる李方部下の雲南軍も亦
宜しく國軍となし以て誤會を免
るべし若し失れ廣西軍問題に至
つては又當に分別して去留辦法
を定むべし廷基ふに現任欽廉鎮
守使沈鴻英尚雷鎮使林虎湖梅鎮
守使劉志陸各率ふる隊伍は之を
其儘にして廣西軍の湖南廣東に
在るものは全部歸還せしめ以て
軍餉となす方得策なるべし總て
不足の軍糧は中央より負擔せん
ことを請ふ

大局稍定まるを俟つて遂次裁減
し以て定額に符すべし將來廣西
の歳費及軍器不足することあら
ば亦中央より支給し國會召集に
は應に如何なる方法を用ふべき
かは中央より各省の意見を徴し
て酌定すべし多數に依りて決を
取らば榮廷は決して之に反對せ
ずより榮廷は一庸人に過ぎざ

れども愛國の心に至つては將公
に遜らず唯故山に退歸してより
以來復た國事を語らざる方創な
り然れども茲に李純陳炯明諸督
軍と共に調和の地位に立ちしは
正に内争を起め外侮を防がんと
せしのみ即ち今日兩廣の事に任
ずるを願はざるも亦非機に於て
聊か病軀を養ひ時機を待たんと
するに外ならず尙或は外人の
侵略甚だしければ即ち我が病を
むして段芝貴を排し以て強隣を
防ぐや論無きなり願はくは其意
を以て芝泉に告げられたし此よ
り前府院に向ひて再回電致せし
事ありしも久しく回答に接せ
ず尙に爲以らく中央は深く廷を
憎めりと故に復言ふ所有らざり
き然るに今林閣下君によりて中
央の意を傳達せるも尙ほ榮廷を
以て與に言ふべしとなすが爲な
らずんばあらず依つて特に詳言
を復せるなり尙ほ仔細の状況は
前記二君の歸京を待ちて再び轉
達すべし

●平和の機運動く

副總統選舉延期の裏面——平和促進會の發起——米公使の南北調停説

去る九日に流會となりし副總統選舉會は十六日再開することに決したるが、爾來曹錕舉出に反對したる新交通系の首領梁士詒は最近王揖唐・徐樹錚の安福俱樂部より分離したる新交通系に運動し更に進歩系たる憲法研究會及孫科宇一派の憲法討論會を誘ひ、兩方安福俱樂部助成しに努力したる結果運動見事に効を奏し、此に安福派は大分裂を來し各派議員及密切したる議員は陸續として天津に下り、副總統選舉はその前日暮於て已に不立に終るべきを斷定されたり。梁士詒の此の切崩し運動が斯くの如き短日の間に成功を著したるものは前に買収されたる安福派の議員にて買収費分配に不平を抱けるものあるに乘じ離間の策を施したるさか、梁士詒が從來同派議員に支給したりし月三萬元の特別手当を梁士詒側にて引受

くるを保證したる爲めに、して彼等議員は信用し難き安福派の下にあるよりも財源の稱ある梁氏の下に附くを有利なりとし、梁士詒が如く安んじて裏切を敢てしたる次第なり。即ち十六日の選舉會は豫測に違はず出席議員は議員八十二名、衆議院百八十九名合計二百七十一名にして法定數に足らざる百十一名にて再び流會となり、副總統の選舉は當分中止するの已むなきに至るなり。抑も梁士詒が曹錕舉出に反對したるもの、梁士詒が曹錕總統たるの資格なきを斷定したるが爲めなるも更に此際若し曹錕を擧げて副總統となすに於ては南北妥協の算之れが爲めに妨けらるゝ恐れあり、平和派としての梁士詒は此意味に於て斷然同選舉を不成立に終らしむるの得策なるを感じたるに外ならず、而して曹錕舉出に對しては徐世昌側に於

ても梁士詒より希望せざりし處にして、此れが爲めに折角平和に努力しつゝある長江三督軍の感情を損ね更に紛争を激せんことを慮りたる形跡あり。斯くして南北問題の結着あるまでは副總統選舉を中止することに一決したるが如し、一方天津に下りし議員は今日まで已に八十餘名に達し、彼等は各地の各旅館に寄宿し、梁士詒を重ねたる結果此に平和促進會なるものを發起し、已にその組織準備に着手したり。而して同平和促進會の裏面には梁士詒・周自齊・朱啟鈐あり、前總統馮國璋も之に關係を有せるもの、如し新交通系研究會之下討論會等を一括せる平和派の一大結集にして偉大なる勢力を形式せん。又同地には王士珍あり、梁士詒あり、促進會は此等の有力者と聯絡するに易く、又徐樹錚・張紹堂・張紹堂の一派とも協力し、此に一大團結を組織し徐世昌を中心として平和促進に運動するに於ては或は南北の問題を疏通するを得て紛争を解くに難からざるも期待せら

れ居り、斯る時機の到達正に一ヶ月以内に在るべしと揣度するものも存するに、然りたりて同促進會の成立は徐樹錚就任後南北統一の機軸として頗る重要視されつゝあり、斯くの如く平和派勢力の復活と共に最も注意すべきは最近曹錕の辭職を以て北京に歸任せし米國公使ライオン・シュルツ氏の態度なり。付て梁士詒の大總統時代南北調停を提議し日米間の關係を起せしライオン・シュルツ公使は今回の歸任に際し支那問題に關し何事かライオン・シュルツ氏の命を來れるものある如く、目下北京外交界にては同公使が南北問題に關し近く何等かの舉動あるべきを期待し居り、最近吉林に於ける米國宣教師バレー氏がウィルソン大統領に對し支那南北調停の建議をなしたる如き米國調停の先鞭をなすに非ずやとの噂あり。(十月十六日 北京支局稿)

南北妥協の聲

その聲の裏面觀

十月十八日

北京 影山生

主戰熱や凋落して和平の聲は種々の形式となつて耳に入るやうになつて來た、去る十六日の臨時統帥會を流布せしめやうとして天津に下つた張作霖は、天津に於て和平促進會なるものを組織し盛んに南北妥協を鼓吹して居る、之が幹部は勿論

▲梁士詒氏

であることは隠れもない事實であるが、梁氏一入でこんな芝居が打てる筈はない、無端自棄も朱啓鈞も混つて居る野に下つた馮國璋迄が北京から口を出して居ることだから仲々大芝居とする形勢となつて來た、それに熊希齡張作霖王克敏段祺瑞迄が加入するとか爲したとか傳へられて居る、李經羲も黎元洪も贊成を示したと傳へられてゐる、その促進會が如何んな手段で南北

▲南北妥協が

そんない加減な手段で出来るかどうかは問題であるが、南北ともに和平を望んで居る事実は事實である、南方にしても口では豪言を云つて居るが岑、陸、唐等の仲は融合したかのやうで暗闘を繰返して居るし文治派たる孫文等と軍政府とは矢張り解け合つて居らぬ、軍政府が徐世昌討伐命令を出したと云ふのは、又考へても到底出来ない問題に

▲北方主戰派

も和平主

義の徐世昌氏が大總統になつて以來少し旗色が惡くなつて來た、それに長江三督軍の代表とも云つては陳光遠が入京して盛んに妥協を勧告するので主戰派も少しは妥協に氣乗りがして來たやうだ、上は支那南北に漂ふてゐる和平派を表面から觀察した結果であつて、之を裏面から觀察したり、斜に推察すると強ちそうとも思はれない點を窺見する事が出来る

▲支那古來の

習慣から

推して現時の妥協説を觀察すると何等の價値もないものとなつて仕舞ふ、徐世昌が大總統になる、先づ開始まつて南北の調停に手を染める、南方が承知せねば北も承知を云ふすると始めは北に出た徐世昌氏で終りには兵となるに決つて居る丁度今の支那は既に始まつた處である、暫くすると兵力に訴へるやうになるのは解り切つた事だ、此間或る要人が支那の時局を論じて結局は主戰派の勝利だ云つたその理由として、南北妥協の不可

▲南方軍政府

は徐世昌

討伐令を出して居る、之を表面から觀察した結果であつて、之を裏面から觀察したり、斜に推察すると強ちそうとも思はれない點を窺見する事が出来る、支那古來の習慣から推して現時の妥協説を觀察すると何等の價値もないものとなつて仕舞ふ、徐世昌が大總統になる、先づ開始まつて南北の調停に手を染める、南方が承知せねば北も承知を云ふすると始めは北に出た徐世昌氏で終りには兵となるに決つて居る丁度今の支那は既に始まつた處である、暫くすると兵力に訴へるやうになるのは解り切つた事だ、此間或る要人が支那の時局を論じて結局は主戰派の勝利だ云つたその理由として、南北妥協の不可

目 要

▲米國々會へ通電

同上電 廣東軍政府は汪兆銘の起草したる左の如き意味の電報を米國に發すべしと

協商國は獨逸に對し支那は非法政府に對し共に強權主義を打破せんとする目的同じ支那の武人官僚は武力を以て法を壞り口に議和を云ふも今苟めの平和を求むれば支那は將來無法律無正義の國たらん之れ支那のみならず常に正義を尊ぶ米國民の願ふ所にあらざるべし

と云ひ袁世凱の爲政當時より去年非常國會廣東に開く迄の運路を述べ更に正義と護法の見地より是非國會及び約法の恢復を期する覺悟を説き簡明なる方法にて和平を得んとするは支那の時局解決上唯一の方法なり國民は護法の主張を托げ屈辱的和平を求むるの意なしと

目 要

支那内地電報

▲南方の討徐通電

二日上海發東方電 廣東電一日百二十名の親派議員連名にて南方各省に徐世昌討伐の請書を發して曰く
 吾人が法治國の實を果ぐるには猶ほ多人の決心を要す非法總統
 と稱せしめ安撫を爲す如きは小數人物の野心を尤たすに過ぎず
 假令外國の勸告あるも一時の僥倖を求むべからず云々とて
 徐從來の行動を非難し最後に此の奸を除かずんば官僚武人の寄
 遊に拾收す可らず各人は一致徐討伐を行ふべく一時の苦痛を
 忍んで國家萬年の基を定めんと陳述せり

目 要

▲陸氏の動靜詳報

北京來電に依れば支那總領事館陸氏は病氣に託して入京を肯ん
ぜず爲に章駐日公使は共立場に窮して辭意を決せりとあるも之に關
し當局は此れ何等か爲にする中傷説なりと解せり即ち陸氏は八日病
を推して入京し其旅館に宛てられたる内相官邸に入りて優待を受け
越えて九日午前陸氏は外務省に内田外相を訪ひ二時間餘に亘りて青
島問題其他に付き懇談を遂げ同日内田外相は答禮の意味を以て内相
官邸に陸氏を訪問し會見約一時間半に及ぶたが陸氏は更に同日午
後日本の構和特使牧野男を訪問約二時間に亘り會談種々打合をなす
ところあり併して章公使は此等訪問中常に陸氏と同行せるなり尙ほ
陸氏の入京するや日本は學界の權威たる三浦博士は特に陸氏を見舞
ひるが症狀は劇烈なる座官柳柳痛にて應急手當をなす要あり直に電
氣治療を行へり經過良好にて陸氏は治療機を携帶十日諏訪丸に乗船
歸大なる見送りを受けつゝ午後二時米國に向ひしものにて前記風説
の全然中傷説なるを推知すべしと

▲徐總統に御答禮

全上電 天皇陛下は徐大總統が今回波佛の支那總領事館が日本
通過に際し特に親書を帝室に寄せる敬意を表し且つ總統の所
を贈進されたる恩惠なる禮儀に對し殊の外御満足を思召さる
のみならず日支兩國の關係益々敦厚ならんことを冀へる總統の
意圖に對し全く御感を同じくせらるゝより来る十四日赴任の小
幡公使をして貴より各體の御長類及び御眞影を奉持御慰
せしめらるべし(共同通信同上)

目 要

陸氏在京中行動

上野、陸氏は九月外相と會見せるは既報の如くなるが其
 後官内省に赴きて天皇皇后兩陛下に對し敬意を表せる後一先づ
 支那公使館に入り章公使主顧の午餐會に出席し午後一時再び章
 公使及び二隨員を伴て牧野男を訪問し一時間半に亘り午の内田
 外相と海軍の關係、獨逸の問題に付再び意見交換せる後原首相
 官邸前首相を訪問し入京の挨拶をなせり徐大總統より我天皇
 陛下に對する親睦及大總統の病氣は陸氏病氣の爲め拜謁を拜辭
 せり九月午前内田外相と會見の際捧呈力を特に陸氏より外相に依
 るを以て外相は直に參内し捧呈の手帳を終り午後四時内相
 官邸で陸氏を訪ひ徐大總統の親睦及寫眞の捧呈を終はれる旨を
 傳へ尙陸氏陛下に於せられては陸氏の病氣に付種々御下問あ
 り云々と優渥なる御沙汰を傳達せるに陸氏は深く感激せりと右
 にて陸氏入京の使命を終れるを以て九日午後五時隨員を伴ひ自
 動車にて退京せるが十日午後三時横濱發の諏訪丸にて渡米す尙
 一行中の劉鐵傑氏は横濱にて陸氏を見送りたる後再び入京三
 週滞在し北京に向ひ歸任の途なりと
 因に云ふ徐大總統の親睦は日支兩國・際關係の益濃厚ならんこ
 とを期する旨陳述せるものにして協和問題には言及せざるやに
 傳へらる尙陸氏は八日夜三浦博士の診察を乞ひ電氣治療を受け
 たるに經過頗る良好なりと

要

段氏の外交協案

五國協約以來南北政界の態度忽然として一變し安協の進行は倍も一千里の多あり最大の難關と目されたる協約問題及び内閣問題も既に入閣の解決を見んとし平和會議地點を上海に決定愈々数日内に會議開始さるべき形勢に迄至りしたるが會議の第一要件たる双方の具體的安協條件は未だ發表されたるを聞かず徐總統は依然として口を執して南北方亦一の條件を期して徐總統の傾向あり

の提案と雖も不可なるべく推定く日本より歸國すべき徐樹錚氏の日本政界の趨向を報告し何によりては段氏亦多少の反省を共に其主張に幾何かの變遷を來すなきやは計られざるも刻下の形勢は勢ひ段氏の提案を中心として北方の安協條件は制定せらるべしと段氏の提案に對し徐氏は其底實を拒否するに便ならざるより獨ら其主張に従つて南方に對し萬方若し反對を表明して萬目的の達成し難き事明瞭なるに至らば則ち段氏は其真意を發表して國民の決に俟たんとする者なりといふあり之れ元より一應ある既にして段氏の意見が其儘通過すべしとは人々も伺せざる處なるも何れの安協は段氏と雖も多くは双方内三の譲歩によりて始めて和議成立する者

なれば徐氏は鄭重の経緯を洞悉して段氏の意見を一たびの提案とせずんとする者の如し而して該條件の氏容は左の如し

- 一、憲法問題 南北兩院より案出して憲法會議を組織し客談會第二議會を通過したる舊草案により憲法を制定す
- 二、國會問題 北方新國會は暫らく解散せしめ憲法制定の上再び新案に於て國會を召集す但し南方は速に新議員を提出して新國會の缺員を補充する事
- 三、軍費問題 軍隊協定は南北に論なく一切中央より負擔する事
- 四、軍官問題 南軍所屬の軍官は中央に於て採用を保證す
- 五、四川湖南問題 兩省督軍及省長は兩省民意を斟酌し本省人をして本省を治るの意に基き中央より之を任命す

目 要

小幡公使の忠告

小幡公使は二十一日朝日支官民多数の見送りを受け奉天出發北京に赴任せり同公使は廿九日廣東三省巡閱使張作霖氏主催の晩餐會に招待されたるが開宴に先立別室に於て張作霖氏と會談し公使は張氏に向つて主戰論を連は動もすれば大勢に逆行して武力解決を主張し然も公自ら急先鋒たりしこの風説あり之れ南北統一上の

障害たると同時に日支兩國の將來に猛々甚だ遺憾とする所なりさて短刀直入的に忠告したるに張は誠意を披瀝して公使の厚意を謝し今次政變の裏面を詳述して自己の眞意を開陳し其結果東三省に於ける日支關係につき兩者の間に善良なる理解を得たるもの、如しを三三三

要

目

京奉鐵道値址

冬季白河結氷後の天津輸出入貨物は悉く秦皇島經由なるを以て日本郵船會社にては運賃以外荷主より特定鐵道運賃を徴し居たるが此程交通部は國有鐵道の收益を圖る目的を以て京奉鐵道に對し從來英支合資の開港工業會社に限り附與し居たる運賃割引の特權を本年末限り撤廢しすべて普通料金に依るべき旨命令したるが會社の困惑は元より便宜上某社を介し開港工業會社の手を経て京奉線の輸送を行へる郵船會社は今冬季より七八割見當の値上を實施せざるべからざるに至れり依つて天津商業會館所英米佛の各會議所を糾合の上斯くては出入外國品の市價を昂騰せしめ一般支那人に取りて不利なるのみならず悉いては對支貿易上面白からざる現象を呈するを以て命令の解除力を懇請したるも未だ抄々し

く効果をみるに至らざるが支那當局は汽船運賃増加の實狀を指摘し他まで當初の意圖を破す模様なし

目 要

林前公使縱談

和平は軍事撤廢に在り
支那公使の返答を聞き北京へ引退
けたる林前公使は、林權助男は六
日後津朝山に歸朝せられた
が、安奉路特務列車に於て暗殺
の被害を被り、左の如し

根本和平

五國代表者の
聯合和平勸告は支那の將來に鑑み

列國の利害より打算し和平統一の
緊要を認めたる結果に外ならざ
可きも、其の效果如何は素より逆
すべからず、但し、大總統は就は以
來常に平和の力を執り國民を
其の内に飽き南北共に和平の氣分
溢せるものあれば進んで此の機
を促進するの效果あるべきは、
待たず元來支那の革命は半熱にし
て不徹底のものなれば、假令國內に
平和の氣分溢り、或はまた之を慈
するとも根本的に南北の融和安

を見ること不可能なるが如し、如何
となれば、清朝時代の官軍、軍隊は
南方革命軍を抑服しつゝ、清朝の退
却を遂げ、一方共和を承認し、他方軍
隊を行はんとする如き矛盾を繰
しつゝ、今日に至りたるものなれば
北方は飽くまで本來の主張たる民
主的革命を現せんとし、北方は其
の勢力の強大を誇り、飽くまで革
命後の報酬要求の大なるを望む、次
に南方の間にも、各根柢を異にし
たる觀念の相違あり、殊に地方軍
が兵力を擁して、覇權を恣にし、地
と云ふ中央と云ふは、常に此の
力に拮据せらるゝもの大なれば、支
那の根本的和平を期せんとせば、先づ
軍の自治を實行し

督軍の撤廢

を斷行せ
ざる可からず、其に督軍の所有する
其力は二萬人を以て一個師とせ
ば、約八十個師の多きに達す、今や
侵略主義の露國崩潰し、獨逸また潰

滅せんとする以上、國防としての兵
力、現在の十分の一にても、尙十分
なるが如し、徐總統は責任と共に軍
隊の整理を行ふを以て、唯一の信條と
爲し、然るも此の軍隊整理は徐氏を
擁立せる督軍の裏切を爲すに均
じきものにて、徐氏を擁する能
より云へば、大なる不平を唱ふべく
此の裏切の経緯は、忽ち徐氏の軋
衝突を暗徴するに至りたるも、實際
に於ける徐段の關係に決して乖離
を來すが如きことなく、寧ろ段氏は
徐氏の爲めに不平督軍連を愚撫し
つゝあり、然れども督軍を撤廢し、其
の兵力を解ふて之を十分の一に削
減し、而して中央に統一するは、言ふ
可くして容易に行はるべきに非ず
所散軍隊の處置と督軍の反對は、將
來再び支那の兵亂を惹起するなき
を保し難し

講和問題

カイザルは今
少し度胸のある英雄と思ひたるに

案外、應答なる質問を表示せり、獨逸
の將來は分岐が共和か、今より知る
可からざるも、英國に於て相違せら
るゝ價金の要求は、其の體裁が
如何に變化するとも、之を敵國人
より賠償せしめずんば止まざる可
く、從て前途の貨物は、推知するに
あり、又講和會議に於ける日本の
立場に就き、杞憂を懐くものある如

きも、予は獨逸を樂觀して可なりと
す、即ち問、青島は當時官軍した
るが如く、一旦之を支那に還附し、
めて之を租借することは、日支兩國
の約束なれば、何等患ふものな
かるべし、南洋の占領諸島は英國の
幾曲あり、西伯利亞また英米と提携
し、正義人迫の軌道を辿つゝある
次第なれば、外國また日本の敵意を
本にするに吝ならざるを信ず云々

目 要

警告の内容

東三省巡閱使張作霖氏の中央政局に於ける行動は往々にして支那の統一を阻止し政局を擾亂するが如きあるを以て我政府は冀に率先して列強を率ひ平和勸告を爲したる關係もあり且又東三省は我勢力範圍内に在るを以て適切な方法を講ずるの必要あり赤塚奉天總領事をして張巡閱使の北京より歸奉と同時に平和に對する警告的勸告をなさしめたり云ふが其内容に至りては赤塚總領事は公表を憚るの故を以て口を緘して語らざるも或る確實なる方面よりの消息に據れば該勸告の趣旨は徐大總統に對したる平和勸告とは多々趣を異にせる者にして即ち東三省は我邦と密接なる關係あり然るに此治安維持の責任にある者が妄りに其地位を離れ且つ其軍隊を中央に送るが

如きは支那全土の統一を妨害するに止まらず延いて東三省治安維持に支障を來し彼の白晝強盜及び邦人殺害事件の如きを續發せるのみならず帝國の公明なる態度を誤解せしむるの嫌ひあれば其行動を慎まされしと云ふにあるが如し而して張巡閱使は此勸告を瞭解して閣後軍事會議の席上に於ても各文武官員に對し極力徐總統の政策を補助して南北統一の一日も速ならん事を圖るべき旨訓諭しつゝありといへば平和運動前途の大障礙は除去せられたる者の如し(附説)

目 要

● 結氷期間の

● 秦皇島運賃問題

△ 近く従前の結果

結氷期間に於ける秦皇島大連間の貨物運賃は、京奉鐵路局に於て従來割引せられ爲めに天津商業界は多大の利益を享受し來りたるが最近支那官運當局は歐州戰後物價非常に暴騰したる爲め従前の規定を取消し普通貨運を徵集する事に決したる爲め天津商會議所は其影響甚大なるを慮り去る十七日露國領事館内に開催せられたる有國領事會議の席上に於て沼野總領事は運賃値下の議を提出したる爲め各國商會場所之れに賛同し直に英領事事に委任したる爲め同領事は北京ジョルダン公使をして支那外交部に目下交渉中なれば近く従前同様の割引の實行を見るに到るべしと希望する。

品 目	普通貨金	割引貨金
雜貨	一噸 九四〇〇	五、四〇〇
絹	大俵 二七〇〇	一、五八〇〇
同	小俵 一、八八〇〇	〇、八九〇〇
綿糸	一捆 一、五六〇〇	〇、八九〇〇

● 張使渡日説

△ 明年三月四月

東三省巡按使張作霖氏の渡日希望は既に兩三年前の懸案となり來りたるものなるが過般東京の露徐大總統の承認を得たれば明年三月四月の頃支那派遣特使の名義を以て日本を訪問することとなりたる由

目 要

直系派の報する 徐總統下野の経緯

吳笈孫の罪狀

徐世昌の大老は却て世渡りの上手な人で、大總統、云々、職を失つたが此總統は所謂非法總統で到底永く持つべきものでない。此大老の腹で四方八方の攻撃の聲を受けて居るも却て退却するには到らなかつたが如何に難重で居つても輿論の機軸には敵し難く遂に下野するに至つた。徐世昌の直系派は左のやうに報して居る。

吳笈孫最悪の罪狀

直系派の報する徐世昌の大老は却て世渡りの上手な人で、大總統、云々、職を失つたが此總統は所謂非法總統で到底永く持つべきものでない。此大老の腹で四方八方の攻撃の聲を受けて居るも却て退却するには到らなかつたが如何に難重で居つても輿論の機軸には敵し難く遂に下野するに至つた。徐世昌の直系派は左のやうに報して居る。

へなかつた安重根の戦も亦彼等挑発せられて起つたもので率

戦を終りを告ぐる中置力で即日特作謀を罷免せよと要求した

が之も吳等が中居つたから徐

老は断然決せんかつた近き舊國

を恢復し、徐老の破壊したの

も吳の献謀によつたものである

外交團から糾問問題の話があ

つた時、吳等は外國の力を藉つ

て直系を抵制せんとした保定

會議で徐老退去を議決し、勢

已去、たが吳は更に最後の挑

闘を試み、密に王内閣の命令が必

ず下るべしと密に宣傳したも

のも其計劃で来る然るに二日

十動に至り徐老は既に退職を決

正したまた之を挽回せんと外力

を借り、閣を逼迫せんと、た吳

は其國公使の出面、以、黎氏の

復讐に反對せんとしたの、並び

に其他の機軸を許さんとしたが

其國公使は本國の方針より

之を断事とし今や大勢已に去

り人の爲めに利用せらるゝを願

はす断然之を拒絶したから吳等

は始め、快復して徐老も亦午後

一時新華宮に歸れた次第である

直系派の全野戰

徐世昌は在位中最も信用せる吳

笈孫の弟の徐世章徐世光徐

世榮徐世芳等の見、信じ各人

の老入にてハタの解任あるも

あり月給八百餘元には驚く是等

は徐老が寵たる故に劣跡の故

擧するに勝てず徐老の名譽は實

に一半と其弟の爲め害せられ

るものである徐世章は幣制局總

裁を辭し津浦鐵路管理局を辭した

が他の他の具任收事するに暇あ

らず毎月約料十萬を下らず

や乃兄が野に下つたから一切、

幾計は已に計した徐世章徐世光

等も次第に辭職した思ふに昔

安徽、學生が徐老の十人罪を
(大總統に訴へ)のも事實である

徐は吳の傳る

徐老、吳笈孫を信じ聲名を得た

る後今次の政變に犯されるが他

は皆吳の行爲を知り徐老本ハ

だけに事を知らなかつたのであ

と徐老の野に下るの速きは吳等

に内づゝ、舊友を誹謗せんとい

、反動に出でたものである徐

老、吳等、後の行爲を知れば及

んで、後悔し其害が己が身及び

ぶを知り出府する時自ら吳が人

を誤らしめし事の淺からざりし

を罵つて居たと云ふ

安福國會交代

國會が既に恢復することとなり

黎元洪は入京し正式に袁坊橋畔

で新國會を開くに至らうが以

前反動の聲を放つたものは徐老

は張作霖の死黨、今日徐老會

は張作霖の死黨、今日徐老會

は張作霖の死黨、今日徐老會

は張作霖の死黨、今日徐老會

末次研究所